

平成28年度 自己評価報告書

平成29年3月

岐阜県立国際園芸アカデミー

1. 学校の教育目標

花と緑に関する高度な知識と技術を持ち、産業を現場で支える担い手として活躍する実務者（マイスター）の育成を目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画及び実績

1 職業園芸人として第一線で活躍できる人材の育成

①教育課程編成委員会の開催による職業教育の質の保証・向上

→前期及び後期に当該委員会を開催し、本学のカリキュラム・シラバス等の検証や、本学が行った前年度の自己評価・当該評価に係る学校関係者評価の結果を参考に、教育課程等の改善方策について検討を行い、カリキュラム等の改善への意見が学長へ提案された。当該意見は、教務委員会及び教職員会議で検討を行った。その結果を踏まえ、次年度以降のカリキュラム等に反映していく。

②教職員研修の充実・強化

業界関係団体主催研修・関係省庁関連研修への参加、企業等派遣研修、卒業生就職先企業での講演活動、普及・試験研究機関・都市公園課等県等行政機関との連携強化

→教職員は、それぞれが必要とする分野の研修を選択し、自主的に参加した。また、企業派遣研修を実施し、教員2名が受講した。授業及び学生生活に係る学生への指導力を向上するために、外部講師による研修を実施した。

2 学生の確保

①H29年度入学手続き者数	入学定員数（20人）確保	→ 19人
②同上県内入学手続き者割合	65%	→ 63%

3 県内への就職率の向上、就職指導強化

①園芸系企業等への就職率	95%	→ 88%
②県内企業等就職率	60%	→ 43%

4 時代のニーズにあった学校運営の推進

①学校評価と学校情報の公表

自己評価 3月公表・学校関係者評価委員会の開催

→前年度の学校運営等に関する自己評価報告書を3月末に公表した。本学が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、当該委員会を開催し学校関係者評価を実施した。当該評価は、学校運営会議・各種委員会及び教職員会議で検討を行った。その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めていく。

5 生涯学習部門の充実(花き文化・花育・園芸福祉を推進)

①一般対象の講座での定員充足 定員に対する受講決定者率 90% → 53%

6 よりよい学校づくりに向けた取り組み

①学習環境、設備の保全と充実

老朽化した施設・生産温室等の計画的補修

→温室及び校舎設備の改修を計画的に実施した。また、学生移送車両及び花材運送用のトラックを新たに整備した。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・育成人材像等

評価項目	評価値
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	4

★評価値：適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1

岐阜県では、「花と緑の空間づくりによる健康でこころ豊かな生活の創造」を基本理念に、その実現に必要な教育機関として平成16年4月に本学を開校した。マイスター科では、花と緑の産業に関わる分野で活躍できる実務者の養成を目標としている。

入学を希望する生徒等には学校見学会、オープンキャンパス及び高校進路ガイダンス等により、在学生・保護者にはガイダンス等により、関係業界等広く一般に対してはホームページ及び学校案内パンフレット等により周知している。

注：①課題、②今後の改善方策、③特記事項は、当該評価項目で該当がない場合は省略

(2) 学校運営

評価項目	評価値
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか ・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4

本学の運営方針及び事業計画は、県予算資料で毎年度策定されている。また、所属目標として、重点的に取り組むことが必要な目標や計画を策定している。方針や計画を達成するため、学長を中心とした学校運営会議で学校全体に関する運営の進行管理を行っている。また、各種委員会では、所管する事務の検討を行っている。これらは、毎月開催する教職員会議での協議を経て意思決定を行い、周知徹底を図っている。

③ 特記事項

今年度から、教員に対する人事評価制度が施行され、教員ごとに業績評価及び能力評価を実施した。また、教職員を対象としたストレスチェック制度が導入された。それらの結果に基づき、職場環境改善のための取り組みを展開した。取り組みに基づく学校運営の改善は、次年度以降、順次実施していく予定である。

(3) 教育活動

評価項目	評価値
<ul style="list-style-type: none">・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどのマネジメントが行われているか・ 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか・ 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

業界が求める人材像を目標として体系的な教育課程が編成されている。各コースで修得すべき知識・技能以外にも、キャリアデザインの授業及びインターンシップの授業等により社会人基礎力の向上を図っている。業界関係者に今後強化すべき教育内容などについての意見を伺いとりまとめ、平成25年度から新しいカリキュラムを導入しており、シラバスの見直しは、毎年度実施している。見直しにあたっては、関連業界等との連携により得た知見を活用している。

専任教員は、実務向上研修及び指導力向上研修を定期的に受講することとし、知識・技能等の修得及び資質向上に取組んでいる。また、非常勤講師は業界関係者等に依頼を行い、現場で役立つ知識・技術の教育に努めている。

① 課題

学期末ごとに学生へ授業評価アンケートを実施している。全教科の平均「満足」度は90%を超えており、総合的には十分な教育効果をあげている。しかしその一方、「期待はずれ」、「どちらでもない」とのマイナス評価を10%以上得ている授業科目も存在しており、その原因究明と改善対策を行う必要がある。

② 今後の改善方策

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。「職業実践専門課程」認定制度への対応を進めているが、この一環として、教員研修をさらに充実・強化していく。

③ 特記事項

教育課程編成委員会の設置及び教員研修等に係る諸規定を整備した。前期及び後期に教育課程編成委員会を開催し、その検討結果を来年度以降のシラバスに反映していく。

来年度は、「花壇実習」、「花修景論・実習」及び「ガーデンデザイン実習」を統合し「花修景実習Ⅰ～Ⅲ」とする。これにより、花フェスタ記念公園をメインフィールドとした授業を新規に行う。

また、「植物管理基礎実習Ⅰ～Ⅲ」の授業内容を見直し、2年生が1年生を指導することによる実践力強化を図る。いけばなは、池坊流派に一本化することとした。

今年度から新たな取組として教員の企業派遣研修を実施した。研修成果は、他の教員に報告することにより、講義・実習内容の改善へ還元している。また、受講教員が中心となり、研修先との学校運営に係る連携を構築していく。

さらに、多様化する学生に対する指導力を向上させるため、県総合教育センターの出前講座「教育相談」及び岐阜大学教授による指導力向上研修を本学で開催し、関係教職員が受講した。

(4) 学修成果

評価項目	評価値
・ 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

毎年度、卒業生に対してアンケート調査を実施しており、学校の教育活動の改善に活用している。卒業生による同窓会が組織されており、また、卒業生が本学の教員を訪問する機会もある。このように、教員と卒業生の間で情報交換がなされ、卒業後の活躍や評価の把握に努めている。

在学生については、希望職種に関連するアルバイトを実施している学生も多く、個別面談等によりその状況を把握している。また、インターンシップ先からの評価書での把握も行っている。

③ 特記事項

アンケート回収率の向上及びアンケート結果に基づく支援資料の向上を図るため、卒業生に対するアンケート調査の見直しを行った。卒業後1年目に加え、ある程度安定した3年目にも実施し、アンケートの集計結果は、当該卒業生にフィードバックし、在生にはキャリアデザインの授業で活用し就職活動の参考となるようにしている。

(5) 学生支援

評価項目	評価値
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・ 学生相談に関する支援体制は整備されているか ・ 保護者と適切に連携しているか ・ 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか 	3

求人事務や企業等からの相談窓口を設置し、学生及び教員に情報提供している。個別の学生指導は、1年生の前期は学生委員長が、それ以降は学生が所属する専攻コースの教員が直接行っている。また、キャリアデザインの授業で個別面談日を設定し対応している。毎年9月に「教育環境に関するアンケート調査」実施している。学生から提出された意見・要望は、学内で十分検討し、学生に回答するとともに、改善可能なものは、速やかに対処している。

県内農林高等学校の窓口教員を設置し、情報交換等を行うことで連携強化を図っている。

① 課題

特に指導が必要な学生については、保護者に来学していただき教員等と3者面談を行っているが、依然として休学者や退学者が発生している。

② 今後の改善方策

教員では、学生の生活指導に限界があることから、来年度は、スクールカウンセラーを新たに設置し、専門家による学生支援に取り組むこととした。

③ 特記事項

学生のシグナルを早期に発見し対策を検討するため、学生委員会の重点取組事項として、学生の動向についての情報交換及び指導方針の検討を行った。また、外国人留学生には、学生委員長及び専攻コースの教員を生活指導担当と定め、必要に応じて支援を行った。

昨年度は、諸般の事情により中止した「なんじゃ祭（学園祭）」を再開し、学生会と本学で共同開催した。

県内就職率向上を図るため、新たな取組みとして職員が県内企業を訪問し、インターンシップ及び就職についての説明を行った。

（6）教育環境

評価項目	評価値
・ 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4

施設・設備は、毎年度、予算の範囲内で改修及び更新を行ってきている。

実習や研修の参加については、事前に外部機関と綿密な打ち合わせを行い、期間中は事故やトラブルにならないように十分注意するとともに、教育効果を高めるよう努めている。

③ 特記事項

本年度は、老朽化した研修教育棟の修繕を始め、温室の改修を大々的に実施した。また、学生の移送に必要となる公用車を更新するとともに、来年度から本格的に実施する花フェスタ記念公園での花壇実習に必要な花材運搬車両を新たに整備した。

（7）学生の受入れ募集

評価項目	評価値
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4

学生募集活動については、高校訪問や高校が主催する進路ガイダンスに積極的に参加して、当校の教育理念や教育目標、教育内容などについて高校側の理解を得られるよう努めている。

また、オープンキャンパスのほか事前申し込み不要の学校見学会を開催し、学校の施設や授業内容、卒業後の就職状況について情報提供を行っている。

学生募集に係る広報媒体については、ホームページ、パンフレットのほか、県広報、関係業界雑誌掲示等により行っている。

③ 特記事項

森林文化アカデミー及び国際たくみアカデミーとの意見交換会を行い、学生募集活動に係る協力体制を構築した。県立高校での認知度を上げ、進学先としての認識を当該教諭に持っていただくことを目的とし、アカデミー3校合同キャンパスの実施を検討している。

記載内容が古くなっていた「マイスター科授業紹介」を更新し、高等学校訪問等に活用した。

11月のオープンキャンパスでは保護者向け説明会を開催し、下宿、アルバイト、学費負担等の保護者が知りたい情報をできる限り提供した。

(8) 法令等の順守

評価項目	評価値
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4

県立の専修学校であり、法令等の順守は厳格に行っている。今年度は、「公務員倫理」及び「情報セキュリティ」の職場研修を実施し、法令等の遵守に係る知識及び意識の向上を図った。

平成25年度から自己評価を行っており、その翌年度から前年度の自己評価に係る学校関係者評価を実施している。平成28年度からは学校関係者評価委員会を開催し、評価内容の充実を図っている。当該評価の結果は、教職員会議でその手立てに係る協議を行い、問題点の改善に努めている。また、自己評価及び学校関係者評価の報告書は、HPにて公表している。

(9) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価値
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4

従来から生涯学習部門を開講し、幅広い年齢層で様々な園芸分野の教育サービスを提供している。今年度は、生涯学習講座での定員に対する受講決定者率が目標を大きく下回った。来年度は、講座のメニューを見直し、受講対象者が求めるものに改善していく。

実習授業では、平成記念公園「日本昭和村」にて入場門前の小庭園を施工し、花フェスタ記念公園にて花壇及び花トピア前庭園制作を行った。

行政機関等からのボランティア活動要請に対しては学生に周知するとともに、参加者については当該機関との調整を行った。今後とも、当該活動に係る学生からの要望には積極的に対応していく。

(10) 国際交流

評価項目	評価値
<ul style="list-style-type: none">受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続等がとられているか学内で適切な体制が整備されているか	4

国際交流は、2学年の必修授業として海外視察研修を行っている。外国人留学生には、本学が作成した「外国人留学生向け学校生活の手引き」を更新し配付した。また、学生委員長及び希望コースの教員を生活指導担当と定め、必要に応じて支援を行った。

③ 特記事項

本学は、観葉植物と花きの苗物生産が盛んなベトナムからの研修生受け入れ機関に指定された。県と友好協力に関する覚書を結ぶベトナム・ゲアン省の農業担当者の視察があり、当校の教育の特徴及び花き生産の様子を紹介した。

☆「財務」の評価項目は、県予算及び決算によることから、掲載は省略した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画は、生涯学習部門の充実が不十分な実績となったが、それ以外はほぼ達成している。また、評価項目の達成及び取組状況は、適切に実施しているものと評価する。

今後とも、時代の要請に応えた新たな取組みに対し、積極的に推進していくこととする。

参考資料

- 資料1 広報活動状況 & 学生募集活動状況 (平成28年度実績)
- 資料2 教職員体制図 (平成28年度)
- 資料3 運営組織図 (平成28年度)
- 資料4 学校行事 (平成28年度実績)
- 資料5 入学試験の実施状況 平成28年度(29年度入学)実施状況
- 資料6 学生の入学・卒業状況 (平成29年3月現在)
- 資料7 資格の取得状況 (平成28年度実績)
- 資料8 表彰等の状況 (平成28年度実績)
- 資料9 職場体験実習(インターンシップ)実施状況 (平成23年度～平成28年度実績)
- 資料10 休学者・退学者数 (平成28年度実績)
- 資料11 卒業生及び同窓会との連携 (平成28年度実績)
- 資料12 進路の状況 (平成28年度卒業生)
- 資料13 平成28年度卒業生までの進路の状況(累計)
- 資料14 海外視察研修日程 (平成28年度実績)
- 資料15 学生の授業評価アンケート結果 (平成28年度)
- 資料16 業界等との連携 (平成28年度実績)
- 資料17 教員の研修 (平成28年度実績)
- 資料18 施設の改修実績及び改修要望一覧
- 資料19 奨学金等の状況 (平成23年度～平成28年度実績)
- 資料20 花と緑の連携授業 (平成28年度実績)
- 資料21 生涯学習講座実施状況 (平成28年度実績)
- 資料22 平成28年度開講科目一覧、シラバス